

令和4年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート

前期分

学校目標		めざす子ども像 ～笑顔輝く南っ子～	
あ た だ し く あ た た か く	1	すすんで勉強する子ども	【ただし】
	2	体をきたえる子ども	【つよく】
	3	がんばりぬく子ども	【つよく】
	4	自分で決めて行う子ども	【ただし】
	5	思いやりのある子ども	【あたたかく】
	今年度の重点目標(重点活動)		
知:正しく	わくわく学び合い	①じっくり考え、しっかり書く	
徳:温かく	にこにこ響き合い	②聴き合い、伝え合い、学び合う	
体:強く	とんとん磨き合い	③自分からあいさつや返事をする	
		④歌声やさんづけ呼称でつながる	
		⑤力を合わせ、清掃に取り組む	
		⑥自分の命と体は自分で守る	

総合評価					
今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらの生活であり、いろいろな制約がある中でも可能な範囲で工夫して活動してきた。子どもたちは、友だちと交流できる機会を楽しみ、やるべきことに前向きに取り組んでいる。行事では、昨年度は開催できなかった運動会を全校で行えたことで、下級生が上級生の姿を見て「あんなりたい」と思いを抱くともよい機会となった。今後も子どもたちの更なる成長のために学年、学校全体で連携し合って教育活動を進めていきたい。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
「さん」づけ呼称が子どもたちに浸透し、定着している。児童会を中心としたあいさつ活動を大切にしていけること、気持ちのいいあいさつが増えてきている。ICT機器を活用しての授業では、聴き合ったり伝え合ったりする活動ができるよう様々な工夫がされ、活かされている。		○			
		○			
		○			

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	学年・学級経営	⑤気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成	ひざつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。
		⑥規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導	校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり(確認・挨拶)」を意識付け、実践させることはできたか。
		③気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底	積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。
	学習指導	④響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり	仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。
		①授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進	校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。
		①じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保	1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。
地域との連携	学校作り	①基礎基本の定着・家庭学習の充実	ドリルや学びの時間で、つまづきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実に取り組んでいるか。
		②わからないことを聴き合い、考えを伝え合い、学び合う授業づくり	ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合い、それを伝え合い、学習場面を設定しているか。
		信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子ども様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
ひざつき清掃や無言清掃に、学年に応じた方法で一生懸命取り組む姿が見られた。更にみんなが「気づき清掃」ができるように進めていきたい。		○			
児童会の呼びかけで廊下を歩くことが少なくなってきたが、まだ決まりが守られていない姿がある。		○			
児童会を中心とした朝のあいさつ運動の取り組み等により、子どもたちからの挨拶が増えてきた。自分から進んで気持ちのよいあいさつができる児童が増え、地域の方からも褒めていただいた。		○			
コロナ禍ではあるが、感染対策をしっかりとしながら工夫して音楽学習発表会を実施することができた。歌声を聴き合い、発表会の後には他学年へ感想を伝え合う活動を行い、良さを共有することができた。		○			
「分かりやすい板書」「ねらいや課題の設定」等、大切に心がけてきた。さらによりわかる授業を目指して研究を重ねていく。		○			
振り返りの時間を短時間でも取るように心がけてきた。十分な時間がとれないことがあるので、更に児童の「できた・わかった」という実感をもてる振り返りの充実を図っていきたい。		○			
支援を必要とする子の個別指導に力をそそいできた。家庭学習の内容を工夫するなどして、家庭学習の充実を図ることができた。なかなか家庭の協力が得られない児童もいる中で、どのようにしていくか更に工夫が必要で		○			
短時間でも、授業の中でペア・グループ学習を位置づけて、互いに考えを聴きあう・伝え合う場面を取り入れてきた。今後も続け、「自分の考えを持ち 表現する」考える活動を充実させていきたい。		○			
保護者・地域の方々がかつて同様に来校し、児童の様子を見ることができないため、学校での様子等を積極的に発信したり、個別にお知らせしたりするように努めてきた。		○			
ボランティアの方々との学習や外部の方との交流活動は制限が多く、あまり実施できていないところがあるが、昨年度よりは実施できた活動が増えている。家庭の生活習慣の確立については、どのように家庭と連携していくか、考えていく必要がある。			○		

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった